

地域の特性を感じながらの実習

今年4月25日から1か月間、佐渡総合病院で総合診療学の臨床実習をさせていただきました。“佐渡”という初めての地は何を見ても新鮮で、実習が進むにつれ私の興味も変わっていきましたが、その都度希望を聞いていただき、見たいものを全部見させていただきました。1番見られて良かったのは、朱鷺の飛来シーンです。

私は総合診療科の醍醐味はその地域の特性・需要に適応することであらゆる面で貢献できることなのかなと勝手に解釈しております。ですから、総合診療科の実習をするからには“佐渡”がどんな場所なのか知りたいな、などとぼんやり思いながら実習に臨んだところ、日々佐渡らしさの一部を感じることができました。おもしろかったです。

佐藤院長から今の佐渡は8年後の新潟だと聞きました。たった8年とはいえ、大きな違いを感じました。佐渡での実習を通して、今ある医療形態や特性は地域ごとにどんどん変わっているということを知ってしまいました。

佐渡の方々のあたたかさに包まれながらも、医療者として将来しっかり貢献できるか不安になった1か月でした。